

中学第2学年国語科「字のない葉書」学習指導案

1. 学習者 2年2組
2. 実施日 2021年9月30日(木)1時間目
3. 場所 2年2組教室
4. 単元名 人間のきずな(向田邦子「字のない葉書」、光村國吉)
5. 単元目標 随筆の味わいを知り、日常の読書生活に生かす。

文章の構成や、人物や出来事を語るとき表現から、筆者の思いを考える。

6. 本時の目標 作中の表現から登場人物の心情を的確に捉え言葉に表すことができる。
7. 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(3) 我が国の言語文化に関する事項 エ 本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを深め、読書に生かしている。	C 読むこと (1) エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。	進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。

8. 単元について

(1) 教材概

本教材「字のない葉書」は放送作家やエッセイスト、小説家として活躍した向田邦子の随筆である。非常に短く読みやすい文章ではあるが、展開の伏線が随所に仕込まれており、映像がありありと浮かんでくるような書かれ方は、数多のドラマの脚本を手掛けた向田ならではのものだろう。

普段は家柄に対して横暴な態度をとる父親が見せた娘たちに対する深い愛情が、手紙と葉書にまつわる二つのエピソードを通して語られる。父は照れ性な性格であることから、子どもたちの前では直接的に愛情を示せずにいるが、親元を離れることになった娘たちには手紙や葉書を何通、何枚と送り、あるいは持たせる。特に後半部にあたる妹から父への葉書の話では、炭間光から帰ってきた末の妹を抱きしめ大泣きする、日常の父からは全く想像できないその姿に、当時の筆者は衝撃を受けている。それから何年も後、当時の父と同じくらいの年齢になった筆者は、大人になったからこそ、父の不器用な愛情を温かく、ほほえましく感じている。

本教材は、父の思いと、それに対する筆者の温かい眼差しが表れている作品と言える。

(2) 生徒観

2年2組は全31名(男子15名、女子16名)の学級である。休み時間は、男子生徒同士はにぎやかに交流する姿が見られ、また女子生徒は友人同士笑顔で会話を楽しんだり、勉強をしたり、あるいは静かに趣味に没頭したりと、穏やかに過ごしている。授業中は、男子生徒はこちらの問いかけに対して活発に反応を示してくれる。女子生徒は比較的おとなしいが、冷静に授業者の話を聞き、自分の答えを持つようとする姿勢が見られる。日常の読書に関しては、こちらが予想していたよりも慣れ親しんでいる様子である。お読みの本を積極的に聞いてきたり、こちらが紹介した小説を実際に図書室で借りて読んでいたり、読書に対する興味や関心を素直に示してくれる。

(3) 指導観

本教材は小説ではなく随筆であるため、あまりこれまで日常の読書の中では触れてこなかったジャンルかもしれない。教科書では一年時に二編の随筆を、また古典ではあるが二年時の春に清少納言の「枕草子」をとり上げている。生徒たちが興味を示しそうな(かつ授業者が実際に読んだ)随筆を最初に提示するなどして関心を持たせられれば考える。

また、「字のない葉書」の内容に関しては、子どもに対する父親の不器用な愛情がテーマとなっている点に注目させたい。思春期にある彼らの中には、大人に対して反抗心を持つ者、あるいは反抗した経験がある者もいるかもしれない。親や教師からの言葉などに、その時は理解を示せなくても、後になってその言動に愛情が含まれていたことが分かったりもする。言葉や態度には山さず子を想う親の気遣いを、気付かないまま日常的に受けている生徒も、少なくないのではないか。授業者の実際の経験などを交えながら、「不器用な愛情」に焦点を当てさせたい。

9. 指導計画(全4時間)

時	学習内容	評価
1	・通読する(教師による範読) ・筆者について確認する。 ・随筆と小説の違いを考える。 ・登場人物の整理をする。 ・作品を前半と後半に分け、内容を整理する。	・作品の内容を整理することができる。
2	・作品の前半エピソード(父からの手紙)から、父の人物像を整理する。 ・父の娘に対する思いを考える。 ・現在の筆者が当時の父をどのように振り返っているかを考える。	・作品前半のエピソードを読んで、父の人物像を捉えることができる。 ・父の人物像を表す表現を本文中から見つけることができる。 ・「私」が当時の父をどのように振り返っているかを考えることができる。
3	・作品の後半のエピソード(末の妹から父に宛てた「字のない葉書」)において、疎開先から送られてくる妹の	・妹の葉書から、様子が見える箇所を見つけることができる。

時	葉書の変化を捉える。 ・葉書の変化や妹の疎開先での様子から、妹の心情を考える。	・葉書に書かれた内容を図に表すことができる。 ・妹の心情を捉え、書くことができる。
4	・作品の後半のエピソードにおいて、妹に対する家族の心情を読み取る。 ・父の行動から、筆者にとって葉書のエピソードが記憶に焼きついている理由を考える。	・文脈中から適切な表現を見つけることができる。 ・日常の父の姿と人前で泣く父の姿を比較して、当時の筆者の心情を推測することができる。

10. 本時の計画 (第3時)

時	生徒の活動	予想される反応	指導上の留意点
導入 5分	・号令 ・前時の内容を振り返る (プリント2残りの答え合わせ) ・プリント3に名前を書く ・本時のめあてを書く		・休み時間中にタイトルと筆者を板書しておく。 ・号令後、出席生徒の確認 ・教科書107ページを開くよう指示 ・ワークシートの配布。名前を書くよう指示。 ・本時のめあてを板書。
展開 40分	・「字のない葉書」後半の内容について学習する。 めあて：妹の心情を捉える。 ・教師による範読(107ページ14行目～最後) ① ・107ページ14行目「終戦の年の四月～」を確認する。(プリント3に記載) ・いつの出来事であるか、及び、「末の妹」が「小学校一年」であること、「学童疎開」の意味や背景を確認する。	いつ：終戦の年 1945年 昭和20年 小学校一年：幼い、小さい、幼稚園	・前で読む。 ・小学校1年生の幼さについて考えさせる。 →「遠足にでも行くようにはしゃいで～」にも着目させる。

		兄と変わらない、6,7歳、戦争の意味もよく分からない、元気、無邪気、不安 学童疎開：平和学習でやった、子どもたちが避難する	・これまでの平和学習などで「学童疎開」という言葉を聞いたことがあるかどうかを確認のために聞く。
②	・107ページ19行目～「父はおびたらしい葉書に～」を確認。 (プリント3に記載) ・「おびたらしい葉書」の意味を確認する。	→ものすごい量	→「おびたらしい」の意味を知っているかを聞く。 ・生徒に葉書の状態をプリント指定箇所に描かせた後、隣(近く)の人間同士で確認させる。→教師が黒板に描く ・葉書の「文面」が、マルやバツのみ(つまり、字が書かれていない)の状態であることを意識させる。 ・後半のエピソードで、タイトルの意味が理解できる仕掛けになっている。
●妹の様子や葉書の変化から、心情を想像する。	→姉に会えた瞬間、我慢していたものが一気に溢れ、泣いた。寂しかった。段々元気がなくなっていった。最初ははしゃいでいたが、家族		・生徒の考えを板書する。 ・108ページ2行目「妹は、まだ字が書けなかった。」と締めて。 →「姉の姿を見ると種をべつと吐き

		に会えなくて元気がなくなっていた。辛い、早く家に帰って家族に会いたい、甘えたい...	だして泣いた」様子を想像させる。 (幼稚園に迎えに来た母親を見て泣き出す園児など) ・疎開先での扱われ方にも触れる
ま と め 5 分	・本時の振り返り		・次回10月1日(金)に漢字テストがあるので再度習っておく。

【ご講評欄】

日 月 年 曜日

漢字 106 一山ベウ
字のない葉書 (3)

向田 邦子 名刺

二年 組 香

めあて 妹の心情を捉える

【後半：妹から父への葉書】

終戦の年の四月、小学校一年の妹が軍府に書意疎開をすることになった。(107ページ14行目)

父はおびたしい葉書にきらようめんな筆で自分宛の宛名を書いた。
「元気な日はマルを書いて毎日一枚ずつポストに入れなさい。」(107ページ19行目)

○疎開先から送られてくる妹の葉書の文字が分かる箇所を黒つけましょう。

紙 <small>い</small> は <small>は</small> い <small>は</small> み <small>み</small> ず <small>ず</small> は <small>は</small> い <small>い</small> り	<input type="checkbox"/>
成祭 <small>なりまつり</small> の <small>の</small> い <small>い</small> 赤 <small>あか</small> 鉛筆 <small>えんぴつ</small> の <small>の</small> 大 <small>おほ</small> マル	<input type="checkbox"/>
マルは急激 <small>きゅうげき</small> に <small>に</small> 小 <small>こ</small> マ <small>ま</small> く <small>く</small> な <small>な</small> た	<input type="checkbox"/>
情 <small>なさけ</small> け <small>け</small> な <small>な</small> い <small>い</small> 黒 <small>くろ</small> 鉛筆 <small>えんぴつ</small> の <small>の</small> 小 <small>こ</small> マル	<input type="checkbox"/>
つ <small>つ</small> い <small>い</small> に <small>に</small> バツ <small>ばつ</small> に <small>に</small> 変 <small>か</small> わ <small>わ</small> つ <small>つ</small> た	<input checked="" type="checkbox"/>
姉 <small>あね</small> の <small>の</small> 姿 <small>すがた</small> を <small>を</small> 見 <small>み</small> る <small>る</small> と <small>と</small> 糧 <small>かて</small> を <small>を</small> べ <small>べ</small> こ <small>こ</small> と <small>と</small> 吐 <small>はき</small> 出 <small>だ</small> し <small>し</small> て <small>て</small> 泣 <small>な</small> い <small>い</small> た <small>た</small> さ <small>さ</small> う <small>う</small> な	...
ま <small>ま</small> も <small>も</small> な <small>な</small> く <small>く</small> バツ <small>ばつ</small> の <small>の</small> 葉書 <small>はがき</small> も <small>も</small> 来 <small>き</small> な <small>な</small> く <small>く</small> な <small>な</small> た	<input type="checkbox"/>

葉書
字のない葉書

●妹の様子や葉書の変化から、心づきを想像してみましょう。

(181) 姉に会えた瞬間、涙を流してはじめての一夜に
あふれ出して泣いた。早く帰りたい。辛い。

なみ